

事業報告

平成29年度 教育事業

タイニーキャンプ①

平成29年6月24日(土)～25日(日)

【対象】小学生(低学年)

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

小学校低学年の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行うことを通して自分に自信をつけ、協調性を育むきっかけづくりとする。

～主催・後援団体～

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後援：伊那市教育委員会

～活動日程～

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1 日 目	10:30～ 受付 11:20～ 開会式					開 会 式	昼 食	活 動 準 備	”自然の中で遊ぼう” 「ぼうけんの森で 動物になって遊ぼ う」			夕 食	夕 食	入 浴	絵 本 読 み 聞 かせ	就 寝 準 備	就 寝
2 日 目	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	清 掃	”みんなで作ろう！ みんなで食べよう！” 「すいとん作り」 「フルーツポンチ作り」			閉 会 式	13:20～ 閉会式 13:50 解散								

～参加者～

小学2年生 計47名（長野県：46名，東京都：1名）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「動物になって遊ぼう」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

ぼうけんの森で、動物になりきって身体を思いっきり動かした。懸垂力・支持力・跳躍力の向上を狙った各種プログラムに皆全力で取り組んでいた。

運動後は周辺の林を探検しながら皆で自然散策を楽しんだ。



活動Ⅱ 「絵本の読み聞かせ」 講師：ボランティア



各活動班毎、担当ボランティアが絵本の読み聞かせを行った。子供達が好きな絵本を数冊選び、各宿泊棟で静かに読み聞かせた。子供達は皆目を輝かせながら聞き入っていた。

活動Ⅲ 野外調理「すいとん・フルーツポンチ作り」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員，ボランティア

野外炊飯棟で「すいとん」と「フルーツポンチ」を作った。子供達は野菜の皮をむいたり、小麦粉をこねたり、缶切りを使ったり、火起こしの補助をしたりしながら一生懸命活動に取り組んだ。



～参加者の声～

《参加児童》

- ・動物になって遊んだのが本当に楽しかった。またタイニーキャンプに参加したい。
- ・すいとんとフルーツポンチがおいしかった。ボランティアのお兄さんとお姉さんがとっても楽しかった。またキャンプに来て、また会いたい。

《保護者》

- ・帰宅後しばらくボランティアのお兄さんお姉さんの絵を描きながら「会いたい」と泣いているほどだった。とっても良くしていただいたようでありがたかった。
- ・初めて親から離れ、一人で宿泊体験を行うということで心配していたが、全く不安に思う隙が無いほど楽しんできた。大変貴重な体験ができて本当にありがたいと感じた。
- ・友だちに手伝ってもらったり、自分が友だちを手伝ったり、知らない友だちと仲良くなったりと本当に成長できた2日間だった。とてもキラキラした顔で帰宅し、親としてとても嬉しく感じた。本当に有意義な体験をさせていただいた。

～成果と課題～

- 当事業は大変知名度が高く、参加を熱望する方が大勢おられる。今後もできるだけ大勢の子ども達に参加してもらえよう、内容を工夫しながら事業の充実を図っていきたい。
- 昨年度の反省を踏まえ、今回は参加児童数を47名に抑えたが、自炊棟での野外調理も無理なく実施でき、事業自体を円滑に運営することができた。今後も45名程度を基準に、各回の参加児童数を設定していく方向が良いと考える。
- 例年実施してきた「抽選」による参加申し込みを変更し、本年度は「webとFAXを用いた先着順」としたが、保護者の皆様方から申し込み方法改善に関するご意見が多数寄せられた。競争率の高い当事業に於いて、公正を期すためにはやはり「抽選」方式へ戻す方向が良いと考える。

事業報告

平成29年度 教育事業 タイニーキャンプ②

平成29年9月23日(土)～24日(日)

【対象】小学生(低学年)

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

小学校低学年の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行うことを通して自分に自信をつけ、協調性を育むきっかけづくりとする。

～主催・後援団体～

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後援：伊那市教育委員会

～活動日程～

時		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
9月23日(土)	10:30～受付 11:20～開会式	開会式	昼食	活動準備	“自然の中で遊ぼう” 冒険の森 「動物になって遊ぼう」			夕飯の準備	夕飯	入浴	絵本読み聞かせ	就寝準備	就寝	
時	6	7	8	9	10	11	12	13	14					
9月24日(日)	起床	朝のつとめ 荷物整理・清掃	朝食	“みんなで作ろう！” みんなで食べよう！” 「マヨコーンピザ作り」 「マロンケーキ作り」				閉会式	13:20～閉会式 13:50 解散					

～参加者～

小学1年生：30名 小学2年生：10名 合計40名

(長野県：34名，愛知県：3名，東京都：1名，山梨県：1名，静岡県：1名)

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「動物になって遊ぼう」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

冒険の森で、動物になりきって身体を思いっきり動かした。懸垂力・支持力・跳躍力の向上を狙った各種プログラムに積極的に取り組んでいた。その後、周辺の林を探検しながら皆で自然散策を楽しんだ。



活動Ⅱ 「絵本の読み聞かせ」 講師：ボランティア



各活動班毎、担当ボランティアが絵本の読み聞かせを行った。大型絵本を使ったり、子供達が好きな絵本を読んだりして、各宿泊棟で静かに読み聞かせた。子供達は皆、目を輝かせながら聞き入っていた。

活動Ⅲ 野外調理「マヨコーンピザ・マロンケーキ作り」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員，ボランティア

野外炊飯棟で「マヨコーンピザ」と「マロンケーキ」を作った。子供達は小麦粉をこねたり、ピザのトッピングをしたり、ホットケーキミックスを混ぜたり、火起こしの補助をしたりしながら一生懸命活動に取り組んだ。



～参加者の声～

《参加児童》

- ・ピザ作りで生地をまるめたことを特に頑張った。またタイニーキャンプに参加したい。
- ・冒険の森までを探検したときに、ハビの抜け殻やキノコを沢山見つけることができとても楽しかった。3泊4日でのタイニーキャンプをやってみたい。

《保護者》

- ・迎えの自家用車に乗るなり、すぐに「来年も絶対に行きたい。楽しかった。」と沢山の事を話してくれた。自然との触れ合いは、なかなかやりたくても連れて行けないのが現状なので、この金額で参加できたり、多くのスタッフに見守られながら元気いっぱい活動できたりして、本当に有り難い。
- ・子供にとっては、失敗して再度チャレンジしたケーキ作りが印象的だった。失敗を怖がる子なので、失敗してもやり直しがきくということをよい形で学べたのかなと思う。
- ・行く前は気がすまない様子だったが、迎えに行ったときの表情がとてもいきいきとしたいい顔をしていて、このキャンプがとても楽しかったことが伝わった。帰りの車の中でも楽しかったことを沢山話してくれ、このキャンプで大きな自信をつけたことを実感した。

～成果と課題～

- 今回は2日目の朝食の時間を8:00からにしたところ、その前の清掃や宿泊棟の片付けがスムーズに行えた。後のタイムスケジュールのことも考えると先に清掃、その後に朝食という流れの方が上手くいくと感じた。
- 3つのめあて「挨拶をしよう」「自分のことは自分でしよう」「みんなで協力しよう」について、それぞれの活動場面毎に「がんばりカード」を用いて振り返らせた。自分たちの活動を振り返り、頑張ったらシールを貼ったことで、次の活動への意欲向上に繋がった。
- 同じ小学校の子供がかたまってふざけてしまう場面が見られた。班編制や宿泊棟の割り当て等において、なるべく同じにならないように考慮する必要がある。

事業報告

平成29年度 教育事業

タイニーキャンプ③

平成30年2月17日(土)～18日(日)

【対象】小学生(低学年)

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

小学校低学年の子どもたちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行うことを通して自分に自信をつけ、協調性を育むきっかけづくりとする。

～主催・後援団体～

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後援：伊那市教育委員会

～活動日程～

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1 日 目	10:30～ 受付 11:20～ 開会式					開 会 式	昼 食	活 動 準 備	”自然の中で遊ぼう” ～雪の体験活動～ 「雪だるまづくり」 「そりすべり」			夕 食	夕 食	入 浴	絵 本 読 み 聞 かせ	就 寝 準 備	就 寝
2 日 目	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	清 掃	”みんなで作ろう！ みんなで食べよう！” 「芋煮作り」 「おにぎり作り」 「フルーツポンチ作り」			閉 会 式	13:20～ 閉会式 13:50 解散								

～参加者～

小学1・2年生 計38名（長野県：35名，山梨県：3名）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「自然の中で遊ぼう」

～雪の体験活動～

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

ぼうけんの森と常設テントサイトエリア、そりコースを使い、身体を思いっきり動かしながら雪に親しんだ。

子ども達は皆、雪玉を転がしながら大きな雪だるまをつくったり、そりコース全面を使ってそりすべりに親しんだりした。森の中に子ども達の歓声が響き渡った。



活動Ⅱ 「絵本の読み聞かせ」 講師：ボランティア



各活動班毎、担当ボランティアが絵本の読み聞かせを行った。子ども達が好きな絵本を数冊選び、各宿泊棟で静かに読み聞かせた。子ども達は皆目を輝かせながら聞き入り、絵本の世界に魅せられていた。

活動Ⅲ 調理活動「芋煮・おにぎり・フルーツポンチ作り」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員，ボランティア

本館内の天竜で「芋煮」と「おにぎり」、「フルーツポンチ」を作った。子ども達は里芋や野菜の皮をむいたり、こんにゃくやきのこをちぎったり、缶切りを使ったり、おにぎりをにぎったりしながら一生懸命調理に取り組んだ。



～参加者の声～

《参加児童》

- ・はじめて会った友だちと仲良くなれたし、たくさん遊べて本当に楽しかった。またタイニーキャンプに来たい。
- ・そりがすごく楽しかった。ボランティアのお兄さんお姉さんといっぱいすべった。
- ・芋煮とフルーツポンチがとてもおいしかった。おかわりをして食べた。ボランティアのお兄さんとお姉さんがとっても優しくかった。ここに住みたいと思った。

《ボランティア》

- ・初めてタイニーキャンプに参加した。低学年の子ども達と実際に触れ合うことで、彼らの発達段階について理解することができた。低学年の子ども達がどんなことを話し、我々ボランティアがどう子ども達とかかわれば良いかを知ることができてとても有意義だった。
- ・子ども達の気持ちの変化や成長を間近で見られたことが本当にためになった。子ども達を褒めるたび、彼らが自分で動こうと成長していく姿が見られ、とても感動した。
- ・子どもの自主性を育てるためには、子どもの自己肯定感を高める必要があるということを学ばせていただいた。

～成果と課題～

- 当事業は大変知名度が高く、参加を熱望する方が大勢おられる。今後もできるだけ大勢の子ども達に参加してもらえるよう、内容を工夫しながら事業の充実を図っていきたい。
- 降雪量は少なめだったものの、全職員の力でそりコースへ雪を入れたり、活動場所の雪を確保したりしたことで、充実した雪の体験活動を実施することができた。今後も冬のタイニーキャンプでは、やはり雪に関する体験活動を重視する方向を継続していきたい。
- この時期はインフルエンザが蔓延する時期であり、予想どおり参加者と学生ボランティアのキャンセルが数件出た。次年度以降もそれを見越して参加者とボランティアの人数を確保していきたい。